状になるが，Frullania 型ではこのような軸は認められなく，原糸体は球状となる。このような原糸体の形の相異はヤスデゴケ科およびクサリゴケ科の全体的な相異ともなる。従つてこの二つの発芽形の相異は原糸体の形の相異（または明かな発芽軸があるかないか）。にあると考えられる。

原糸体からの幼植物の発達過程は二つの型で全く同様である。このことからクサリゴケ科の中でも Holostipae 亜科（Lopholejeunea 型のものはすべてこの亜科に属する）とヤスデゴケ科の近縁関係が証明されると考えられる。

○ヌカボガエリについて（檜山庫三） Kōzō HIYAMA: On *Polypogon hondoensis* Ohwi

大井次三郎博士も既に云われているようにヌカボガエリ（*Polypogon hondoensis* Ohwi）はヒエガエリとコヌカグサとの間に出来た自然雑種に違いないと思える。これまで，この植物は本州の青森・富山・長野の 3 県で発見されていたが，今度（1957 年 4 月 14 日）群馬県前橋市の岩神河原で戸部正久氏が採集された。戸部氏の標本では lemma に明かな芒があつて，その長さは小穂より僅に超出するか少し短い。しかし，lemma に芒の出る出ないはこの場合は多分雑種性のしからしむるところであろうから，この点問題はないと思う。雑種では個体によつて両親のどちらかの形質がより強く現われることがあるが，前橋産のものはコヌカグサの形質の方が一層強く現われており，その片親のコヌカグサとハイコヌカグサに近い型のものだつたように想われる。また包穎の背は多かれ少かれ稜をなしていて，その側面には一面に微細な刺状突起のあるのがルーペで見られる。

×**Agropogon hondoensis** (Ohwi) Hiyama, comb. nov.

Polypogon hondoensis Ohwi in Bot. Mag. Tokyo **55**: 357 (1941).

Agrostis palustris Huds. × *Polypogon fugax* Steud.

Distr. Hondo: Mutsu, Ettyu, Shinano et Kodzuke.

○イモネラン九州に産す（久内清孝） Kiyotaka HISAUCHI: *Eulophia ochobiensis* Hayata has been collected in Kyushu.

イモネランが九州に産することについては，現地の人達には，わかつているかも知れないが，流布されている文献や，東京大学，科学博物館の収蔵標本では証明できない。ところが，千葉大学教授荻庭丈美氏は昨年 7 月，これを宮崎県辺塚の叢中で得られた。鑑定は私がしたので，更にラン科の専門家を煩す必要があるが *Eulophia* 属であることはたしかである。東京には早田博士のタイプの外，西南諸島からの標本はかなりあるので，それ等と比較するとイモネランということになる。そうして，津山氏が小笠原でかかれたイモランとは少し異るようであるが，私はまた比較解剖をしていない。